

郷土博物館だより【つはく】

つはく TSUJAHAKU

2018.10 No.98

トピックス

夏の学習プログラム
博物館実習の受け入れ

研究ノート

津山藩における徳川家歴代将軍の
年忌法要

小島 徹

お知らせ

古文書講座の日程変更
資料貸出



津山郷土博物館

Tsuyama City Museum

(表紙写真 「弥生土器をつくろう」土器つくりの様子)

夏の学習プログラム

今年度の夏の学習プログラムは、『弥生土器をつくろう (7/23・8/17)』と『勾玉をつくろう (8/21・8/22)』の2講座を開催しました。当館は現在、耐震改修工事のため、津山弥生の里埋蔵文化財センターを会場に弥生土器づくりと勾玉づくり、そして当館裏庭で土器の野焼きを行いました。

参加者の皆さんは、それぞれの講座を熱心に取り組み、とても素敵な勾玉や弥生土器を作りました。出来上がったものは、夏休みの宿題や宝物にするそうです。次に、感想文の一部を紹介します。



勾玉をつくろう

大崎小1年 岡本 瑚春さん
けずるのがむずかしかったけど、たのしかったです。

高野小2年 近藤 佑音さん
けずるのがたいへんでした。キレイになってよかったです。

新野小1年 大畑 那智さん
たのしかった。みがくのがたのしかった。きれいになったのがたのしかった。けずるのがたのしかった。

北小2年 菅田 柚希さん
みがいてだんだんきれいになっていくのが楽しかったです。

高倉小2年 金谷 瑛士さん
やすりでけずるのがむずかしかったです。

南小3年 日下 颯太さん
お兄さん(博物館実習生)がいたので星の形ができました。

東小3年 中嶋 心美さん
さいしょはかんたんに作れるかなと思いました。でもみがくの力がいるのでむずかしかったです。さいごにきれいなまが玉ができてうれしかったです。またまが玉を作りたいです。



誠道小3年 葛間 奏汰さん
勾玉作りがこんなに大変なことをしりました。形をととのえるところが大変でした。でもいろいろなことを知りました。たのしかったです。

弥生小4年 中村 公美さん
まが玉が上手につくれてよかったです。

弥生小4年 内田 菜さん
手がまっ白になってつるつるすべりました。

高倉小4年 金谷 琴音さん
むずかしかったけど楽しかった。またやってみたいと思いました。



鶴山小5年 芦田 真呼さん
丸にするのはむずかしかったけど、だんだん形になってきてよかった。

秀実小5年 岩本 葵さん
けずるのにとっても力がある。最後にとつむつるになった。

弥生小5年 芦田 昶瑠さん
糸のこぎりで切るのがなかなか下にいかなかった。けずってみがくのが大変だったけど、とてもいい勾玉が出来た。

鶴山小6年 万代 小百合さん
かどをけずるのを頑張った。形を整えるのがむずかしかった。

弥生小6年 小山 賢太さん
石をけずるのは難しかったけど、がんばってけずれて楽しかった。

佐良山小5年 福井 彩乃さん
形をつくるのがとても難しく、表面をきれいにととのえるのもとても難しかった。あと、昔の人はこんなものを作っているのは、とてもびっくりしました。





南小5年 日下 由奈さん

土器を作るのに手がよごれたり、うまく作れなかったりしてむずかしかったです。でも、ちゃんと思のようにできたのでよかったです。楽しかったです。火で土器を焼くので、土器がわるるか心配でした。われてなかったらいいと思います。火おこしをするのに、火がつかせませんでした。力かけんとかいきおいが大切だと聞いたけど、やっぱりむずかしかったです。

広戸小5年 谷口 幸之助さん

土器を作る時、コツをおぼえるのがむずかしくて、3時間もやってしまったけど、いいぐらいにできた。いっぱい作れていっぱい使えるように工夫して作れたからいいし、火おこし体験も1回しかつかなかったけど、とても楽しかったです。来年もやって、次は、いい作品を作りたいです。

弥生小6年 土倉 彩恵子さん

ねん土で形を作った時は、上に重ねるねん土が重くてずれそうになって大変でした。イニシャルをつけるのは楽しかったです。野焼きをする時は、土器を火の中に直せつ入れたので、こわれそうか心配だったけど、こわれなかったので良かったです。火起こしは、手がいたかったけど、火がついたので達成感があって楽しかったです。



広戸小6年 谷口 友望さん

弥生土器を作る時は、意外に難しかったけど、やって慣れてくるとすごく簡単だった。中に入れて外に出したりの調節が難しかった。でも作っていたら楽しかった。野焼きは自分で土器を置いていくのはすごく熱かった。火起こしは、いつまでやっても火がつかなくてすごく難しかった。けむりは出ても全然火はつかなかった。手と足がすごくいたかった。最初は全然できなかった。

広戸小6年 加田 陽一さん

弥生土器を作る時は、すき間ができないようにするところやできるだけ大きくするところに気をつけたり、できるだけ早くすることに気をつけた。焼く時は温度変化に気をつけて、最初は遠い所から置くところに気をつけた。火起こしでは火種が消えないようにはなれないようにした。他にも土台がはなれないように手で土台をおさえるところに気をつけました。火がつくまで苦労したけど、4回もついたからうれしかったです。またやりたいです。



広戸小6年 鈴木 健心さん

案外、土器を作るのは難しくて、何回もやりなおしてやったけど、丸くすることができなかった。丸くするとき遠りよしてやったから丸くならなかった。火起こしをする時に、最初はけむりを起こすのも難しかったけど、力強く素早くしたらけむりや粉がよく出てきて、もっとやっている時、火種がよくでてきて、火をつけることができた。土器を作るところから火起こしまで全部楽しかったので、またやる機会があればやりたい。



弥生土器をつくらう

博物館実習生を受け入れました

8月16日～24日の期間、博物館実習生を受け入れました。本年度は、耐震改修工事で休館中のため、展示関係の実習はできませんでしたが、資料の整理や、小学生向け講座の手伝いなどを中心に実習を行いました。



岡山大学文学部人文学科三年 松田拓磨さん

私は、今回大学の学芸員過程のカリキュラムに含まれる「博物館実習」の授業として、津山郷土博物館の実習に参加しました。実習の期間は8月16日～24日の間の平日の七日間でした。

実習では、和綴り本の修復や卷子、掛軸の取り扱い、津山市の地図の撮影、倭文神社の宮司の家柄である為貞家の古文書整理、土器焼体験と勾玉づくりの補助を行い、博物館業務の内実を肌で感じることが出来ました。

中でも特に印象に残っているのが、勾玉づくり体験の補助と為貞家文書の整理作業です。勾玉づくり体験では、参加された方に勾玉の概要と作り方の説明をさせて頂きました。人前で説明することに慣れていない為、説明は不出来な物となりましたが、おかげで、どの様に話せば興味を持って聞いてもらえるのか、どうすれば分かり易く説明できるかなどの反省に繋がりました。

もう一つ挙げました為貞家文書の整理は、私自身が倭文の出身で自分の地域に関連する古文書を読むのが楽しかったという事と、日本史を専攻している事もあって印象深かったです。この為貞家文書を読んだことで、地方史料の整理・保存や史料の研究を地域にどう還元していくかなど、新たな関心や視点を持つ事が出来ました。この関心と視点を今後の日本史研究にも活かしていけたらと思います。

最後になりましたが、津山郷土博物館での実習を通じて、博物館業務の「整理・保存」や「教育」、「調査・研究」について学ぶことが出来、大変貴重な経験を積むことが出来ました。

実習中お世話になりました皆様、厚く御礼申し上げます。

津山藩における徳川家歴代将軍の年忌法要

はじめに

日本では、仏教徒の死後に1周忌・3回忌・7回忌…と年忌法要が行われます。江戸時代には、歴代将軍の年忌法要を、徳川家だけでなく諸大名までもが、自らの領国内で行っていました。管見では、萩藩毛利家・鳥取藩池田家・岡山藩池田家などにおける祭祀の実態が、近年の研究で明らかになっていきます(末尾の参考文献参照)。津山藩松平家においても、歴代将軍の年忌法要をほぼ欠かさず行っていた様子が、同家の「国元日記」からうかがえます。

歴代将軍の埋葬と法要

徳川家の歴代将軍は、日光に埋葬された初代家康と3代家光、江戸時代には亡くならなかった15代慶喜を除くと、芝の増上寺か上野の寛永寺に葬られ、霊廟(故人の霊を祀る建物)が建立されています。そして、家康は増上寺と寛永寺に、家光は寛永寺に霊廟がありました。徳川家の法要は、それぞれの霊廟のある寺院で行われましたが、津山で松平家が法要を行う場合は、江戸での寺院の区別に倣い、浄土

宗の増上寺に祀られた将軍は同宗の泰安寺(西寺町、元文4年(1739)以前は涅槃寺と称す)で、天台宗の寛永寺に祀られた将軍は同宗の地藏院(小田中)で行われました。

津山での法要の手順

では、法要はどのように行われたのでしょうか。ここでは、7回忌法要の事例をいくつか紹介します。

○正徳5年正月10日 常憲院(5代綱吉) 7回忌法要

・2日前…法要当日の鳴物高声停止の触書発布。白銀15枚・白米10俵などの供養料が地藏院へ。

・当日…未明から惣奉行の渥美図書(家老)以下藩士13名が地藏院に詰める。

8名の僧侶により、卯上刻(午前5時半頃)〜巳中刻(午前10時頃)に法要。

地藏院には薯蕷(山芋)30本、僧侶に金200疋ずつの布施と茶のふるまい。

四半時(午前11時頃)に藩主が参詣、白銀50両の香典持参。

帰城の後、地藏院詰めの藩士たちへ藩主の劳いの言葉が伝達。

藩領内外の座頭・警女(当時、盲目の男女を指す語)315人に布施として、総額で銀2貫14匁5分を配布。

○享保3年10月14日 文昭院(6代家宣) 7回忌法要

・7日前…寺院詰の藩士に申渡し。
・3日前…法要当日の鳴物高声停止の触書発布。

・当日…惣奉行の安藤主殿(家老見習)以下藩士12名が涅槃寺に詰める。

8名の僧侶により法要を実施(時間帯不明)。
四時(午前10時頃)に藩主が参詣、白銀5枚の香典持参。供養料は前例の通り。

涅槃寺には薯蕷1折、僧侶に金200疋ずつの布施。

○宝暦7年6月20日 有徳院(8代吉宗) 7回忌法要

・7日前…寺院詰の藩士に申渡し。法要実施の廻状発布。
・当日…白銀3枚・白米2俵などの供養料が地藏院へ。

未明から惣奉行の安藤頼負(家老)以下藩士8名が地藏院に

小島 徹

詰める。

11名の僧侶により、卯中刻(午前6時頃)から法要開始。

地藏院以外の僧侶に金1000疋ずつの布施。
藩領内外の座頭・警女242人に布施として総額で銀76匁5分を配布。

○明和4年6月12日 惇信院(9代家重) 7回忌法要

・9日前…寺院詰の藩士に申渡し。
・3日前…法要実施の廻状発布。

・前日…申中刻(午後4時頃)から泰安寺にて僧侶のみで読経などの儀式実施。

・当日…白銀3枚・白米2俵などの供養料が泰安寺へ。
未明から惣奉行の大熊兵庫(年寄見習)以下藩士8名が泰安寺に詰める。

8名の僧侶により、卯中刻(午前6時頃)から未刻(午後2時頃)まで法要。

・2日後…藩領内外の座頭・警女(人数不明)に布施として総額で銀2貫24匁(直後の有徳院17回忌分との合計額)を配布。

時期によって日記の書きぶりが異なるため、単純な比較はできま

せん。ただ、供養料や布施の額、寺院詰の藩士の人数などには相違が見られますが、当日の僧侶による式典は早朝から昼前もしくは昼過ぎまで行われ、藩主が在国の場合は、その後に藩主が参詣して終了という手順は変わらないようです（宝暦7年・明和4年は、ともに藩主が江戸参勤中）。終了後は、座頭・瞽女に布施と称して銀子を配る慣習だったようで、これは藩主松平家の吉凶時にも行われています。

「国元日記」の通覧

津山藩松平家の「国元日記」を通覧して、同家が津山で実施した將軍の法要をまとめたのが、7頁の表です。この表からまずわかるのは、泰安寺と地蔵院とで21〜27回忌の祀り方が異なる点です。泰安寺では23回忌・27回忌、地蔵院では21回忌・25回忌と行っています。これは、現在でも宗派や地域によって相違があるようです。

次に気付くのは、家康だけは2寺いづれもが祀っていることです。ただし、泰安寺では家康のことを「安国院様」と法名で呼ぶのに対して、地蔵院では神として祀られた家康の神号「東照宮」を用い、法

要も「御神忌」と称されます。また、2寺が同時に祀るのではなく、「取越」と称してどちらかが早めに法要を行っています。この早め方にも寺院による相違があって、泰安寺では1か月、地蔵院は7か月ですし、どちらが早めるかにも、何らかの規則性があるようです。

法要記事の欠落事例

それから、行われるべき時期に法要の記事が見られなかったのは、次の4つです。

- ①元禄13年の大猷院（3代家光）50回忌
- ②同年の厳有院（4代家綱）21回忌
- ③正徳5年の東照宮（初代家康）100回神忌
- ④明治3年の温恭院（13代家定）13回忌

①と②については、この年の「国元日記」が、文化6年（1809）の津山城本丸火災により焼失したものを、残存記録から補ったものであり、しかも100年以上前の出来事であるため、法要が実施されたにもかかわらず、残存記録では補えずに忘れ去られた可能性があります。

③については、地蔵院が取越で行うべきところですが、200回神忌の例で推測される前年9月だ

けでなく、前年正月〜当年4月の「国元日記」を調べても、実施記事が見当たりません。定かなことはわかりませんが、当時、地蔵院内に東照宮の神忌を行える施設が整っていなかったのかもしれない。

④については、時代が変わり、徳川家を崇敬する行為が憚られるようになって廃止したものと考えられます。これに関連して、前年の明治2年には慎徳院（12代家慶）17回忌が行われていますが、2日前に金子と白米が泰安寺へ下賜され、当日は「若殿様（康倫）」が泰安寺に参詣したと記されるだけでなく、詳細に記録されていた江戸時代の法要記事とは雲泥の差があります（当時、藩知事慶倫は上京中で国元不在）。これも、単に記録を省略したのではなく、実際に法要の規模を大幅に削減したことの結果ではないかと思われます。

これに対して、慶応4年8月の昭徳院（14代家茂）3回忌は、新政府軍が各地の旧幕府軍を制圧しつつある中で、以前と同様の規模で行われており、これが津山藩における歴代將軍年忌法要の実質的な最後と言えるのではないのでしょうか。

おわりに

他藩における將軍法要の研究では、藩と実施寺院との連携だけでなく、江戸の増上寺や寛永寺と実施寺院との緊密なやりとりの存在や、実施寺院を頂点とする領内各宗派の寺院の格付け・編成の様子が明らかにされているほか、合わせて実施される恩赦や鳴物停止令によって、將軍の權威が強調される仕組みも分析されています。資料の制約はあるものの、津山藩においても同様の視点から個々の事例を検証し、また時期による変遷の有無を確認する必要があります。江戸時代の將軍の死は、巧みに政治的に利用され、幕府と諸藩による支配体制が維持されていたのです。

参考文献

- ・谷口眞子「岡山藩における將軍回忌法要の恩赦」『史観』165、2011年
- ・岸本覚「萩藩における歴代徳川將軍家祭祀」『季刊日本思想史』78、2011年
- ・同「鳥取藩における歴代將軍年忌法事と大雲院」『季刊日本思想史』82、2017年

津山藩松平家において執行された徳川家歴代将軍の年忌法要

※出典は津山藩松平家文書「国元日記」。期間は元禄11年(1698)の松平家津山拝領から明治4年(1871)の廃藩置県までとし、その範囲外の年忌は「—」で示した。それぞれ上から順に、実施年・西暦・実施寺院(和暦の改元年は改元前後で表記を変更)。21~27回忌は地蔵院と泰安寺との間に相違が見られ、行わない年忌には「◆」を付した。それ以外の年忌で確認できなかったものは、行われるべき年の下に「無」と記した。また、家治・家慶・家定・家茂の年忌は、発喪の日付を基準にしているため、没年月日の下にその日付を明記。「取越」と称して早く行われた年忌は、実施年月を記した。

代数	将軍名	院号	没年月日	1周忌	3回忌	7回忌	13回忌	17回忌	21回忌	23回忌	25回忌	27回忌	33回忌	50回忌	100回忌	150回忌	200回忌	250回忌	
1	家康	安国院	元和2(1616)4/17	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	正徳5 1715	明和2・3 1765	文化12 1815	元治2・3 1865	
		(東照宮神忌)		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	正徳5 1715	明和2 1765	文化11・9 1814	慶応元 1865	
2	秀忠	台徳院	寛永9(1632)正/24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	享保16 1731	安永10 1781	天保2 1831	—	
3	家光	大猷院	慶安4(1651)4/20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	元禄13 1700	寛延3 1750	寛政12 1800	嘉永3 1850	—	
4	家綱	厳有院	延宝8(1680)5/8	—	—	—	—	—	元禄13 1700	◆	宝永元 1704	◆	正徳2 1712	享保14 1729	安永8 1779	文政12 1829	—	—	
				—	—	—	—	—	無	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院
5	綱吉	常憲院	宝永6(1709)正/10	宝永7 1710	宝永8 1711	正徳5 1715	享保6 1721	享保10 1725	享保14 1729	◆	享保18 1733	◆	元文3 1741	宝暦8 1758	安永8 1808	文政5 1858	—	—	
6	家宣	文昭院	正徳2(1712)10/14	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	◆	◆	◆	元文3 1738	宝暦11 1761	文化8 1811	文久元 1861	—	—	
				1713	1714	1718	1724	1728	—	—	享保19 1734	◆	元文3 1738	延享元 1744	宝暦11 1761	文化8 1811	文久元 1861	—	—
7	家継	有章院	正徳6(1716)4/30	1717	1718	1722	1728	1732	◆	◆	◆	◆	元文3 1738	寛保2 1742	明和2 1765	文化12 1815	慶応元 1865	—	—
				涅槃寺	涅槃寺	涅槃寺	涅槃寺	涅槃寺	涅槃寺	涅槃寺	涅槃寺	涅槃寺	涅槃寺	涅槃寺	涅槃寺	泰安寺	泰安寺	泰安寺	泰安寺
8	吉宗	有徳院	寛延4(1751)6/20	宝暦2 1752	宝暦3 1753	宝暦7 1757	宝暦13 1763	明和4 1767	明和8 1771	◆	安永4 1775	◆	天明3 1783	寛政12 1800	嘉永3 1850	—	—	—	
				地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院
9	家重	惇信院	宝暦11(1761)6/12	宝暦12 1762	宝暦13 1763	明和4 1767	安永2 1773	安永6 1777	◆	天明3 1783	◆	天明7 1787	寛政5 1793	文化7 1810	万延元 1860	—	—	—	
				泰安寺	泰安寺	泰安寺	泰安寺	泰安寺	泰安寺	泰安寺	泰安寺	泰安寺	泰安寺	泰安寺	泰安寺	泰安寺	泰安寺	泰安寺	泰安寺
10	家治	浚明院	天明6(1786)8/25 発喪:9/8	天明7 1787	天明8 1788	寛政4 1792	寛政10 1798	享和2 1802	文化3 1806	◆	文化7 1810	◆	文政元 1818	天保6 1835	—	—	—	—	
				地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院
11	家斉	文恭院	天保12(1841)閏正/30 法要実施は正月	天保13 1842	天保14 1843	弘化4 1847	嘉永6 1853	安政4 1857	万延2 1861	◆	元治2 1865	◆	—	—	—	—	—	—	
				地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院	地蔵院
12	家慶	慎徳院	嘉永6(1853)6/22 発喪:7/22	嘉永7 1854	安政2 1855	安政6 1859	慶応元 1865	明治2 1869	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
				泰安寺	泰安寺	泰安寺	泰安寺	泰安寺	泰安寺	泰安寺	泰安寺	泰安寺	泰安寺	泰安寺	泰安寺	泰安寺	泰安寺	泰安寺	泰安寺
13	家定	温恭院	安政5(1858)7/6 発喪:8/8	安政6 1859	万延元 1860	元治元 1864	明治3 1870	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
				地蔵院	地蔵院	地蔵院	無	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
14	家茂	昭徳院	慶応2(1866)7/20 発喪:8/20	慶応3 1867	慶応4 1868	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
				泰安寺	泰安寺	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
15	慶喜	(神葬)	大正2(1913)11/22	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

古文書講座の日程変更について

2月20日（水）に予定しておりました古文書講座第8回の日程を、会場の都合などにより翌日の2月21日（木）に変更させていただきます。

鳥取市歴史博物館へ資料の貸し出し

鳥取市歴史博物館で9月29日～11月11日まで開催される「明治維新150年記念鳥取の明治維新」に資料を貸し出しています。当館からの出品資料は「天保山諸家警備之図」、「大政奉還上意書写」、「大政奉還勅許の沙汰書写」の三点です。



天保山諸家警備之図



博物館だより「つはく」
No.98 平成30年10月1日

津博
TSUYAMA

【編集・発行】 津山郷土博物館
〒708-0022 岡山県津山市山下92
Tel (0868) 22-4567 Fax (0868) 23-9874
E-mail tsu-haku@tv.t.ne.jp

【印刷】 有限会社 二葉印刷

休館中のご案内

【資料閲覧】

閲覧可能日：月曜日～金曜日（要予約）
（祝日・年末年始は除く）の午前9時～午後5時

【頒布資料について】

当館発行の頒布資料につきましては、原則郵便にて受け付けます。詳細はお問合せください。